

# 八王子の民俗ノート No.6

## 旧八王子町の民俗調査を開始しました

平成27年は、旧八王子町（八王子十五宿と千人町、元横山村、新横山村、子安村、本郷村）の民俗調査を行います。

八王子市市史編さん室では、これまで恩方・由木・浅川・加住地区のかつては農山村であった地域の民俗調査を実施してきました。その成果は順次調査報告書として刊行しています。旧八王子町の中心部は、江戸時代から非農業的な生業を持つ人々が集住した都市的な地域です。旧八王子町の総合的な民俗調査は、八王子市としては初めての調査です。文字には記録されない市民の暮らしぶりを、この機会に記録し次世代に伝えましょう。

この調査の成果は、平成28年に調査報告書として刊行する予定です。何とぞ、お忙しいとは存じますが、何とぞ調査にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

## 旧八王子町へのいざないー八王子の街を知ろう

**民俗調査** 民俗調査では、特別なことではなく、市民の方々が経験されてきた暮らしぶりをうかがい、主に文字で記録します。八王子市市史編さん室（〒193-0943 八王子市寺田町 1455-3 電話 042-666-1511）から依頼した調査経験の豊富な調査員が、お宅を訪問するなどして聞き書きをします。原則として、事前に電話や編さん室からの文書でご都合をうかがい、日時を定めてから調査をします。

**調査の主な項目** 町会や自治会、商店街などのこと。織物業、商店、料亭、職人、鳶などの生業のこと。住まいやまちの環境のこと。衣食に関すること。正月から暮れまでの年中行事。冠婚葬祭の変化。お誕生から葬儀までの人の一生に関すること。神社や寺院のこと。祈願やお祭りなどのこと。芸能のこと。伝承されてきた子供の遊びや歌など。

なお、思い違いや聞き違いをなくすため、後ほど文書にまとめた記録を確認していただくこともあります。また、事前に下調べなども行いますので、よろしくお願いいたします。

下記に、旧八王子町を調べる場合、参考となるものを掲載しました。ご参考になれば幸いです。

### 1 市制施行までの行政区画の変遷（『八王子市史』附編 八王子市 1969）

和 暦	西 暦	こ と が ら
明治 元年 6 月	1868	江川代官所支配地が菰山県、旗本知行地が品川県、前田家の高家領と寺社領は旧領のままとなる
明治 元年 12 月 28 日	1868	菰山県及び品川県のすべてを旧神奈川県に統一される

明治 2年 6月	1869	高家領（八王子では前田家の領地）と寺社領が、旧神奈川県 <small>の</small> 管轄となる 版籍奉還（大名が領土と領民を政府に還す）
明治 3年 7月	1870	太政官布告で、戸籍法を施行 大区・小区制（これは行政区画ではない）
明治 4年 7月	1871	廃藩置県（全国の藩を廃して、府県が置かれる）
明治 5年 4月	1872	名主、年寄りを廃して、戸長、副戸長を選出
明治 6年 5月	1873	<b>行政区画を定める 区番組制</b> 、区に正副区長、番組に正副戸長を配す
明治 7年 6月	1874	<b>大小区制に改正し、番組を小区とする</b> <b>大区に正副区長、小区に正副戸長、村ごとに村用掛をおく</b>
明治 11年 7月 23日	1878	郡区町村編成法
明治 11年 11月 18日	1878	<b>大区を郡に、小区を町村に再分合させ、町村名は江戸時代の呼称を用いた</b> 多摩郡は、南北西の三郡に区分される（東多摩郡は、明治5年に東京府に移管） <b>八王子十五宿が「横山宿」と総称され、「八王子」の名が消えて問題となる</b> 十五宿（横山宿 八日市宿 小門宿 上野原宿 本宿 八幡宿 寺町宿 本郷宿 久保宿 子安宿 横丁宿 嶋坊宿 馬乗宿 新町宿 八木宿） 八王子市域の村は、横山宿を入れて 66 か村
明治 12年 4月	1879	<b>「横山宿」から「八王子駅」と名称変更し、「八王子」の名が復活する</b> 南多摩郡内の同名の村には、東、西、南、北などが冠せられる 南大澤村、東中野村、北平村、西中野村、北大澤村、西寺方村、西長沼村となる
明治 15年 7月	1882	<b>町村の分合を実施 旧十五宿、千人町と元横山村、新横山村、子安村とが合併し八王子となる</b> （新町 横山町 八日町 八幡町 八木町 本郷町 久島町 馬乗町 小門町 子安町 上野町 千人町 寺町 本町 大横町 元横山町 元子安町 新横山町）
明治 17年 7月 5日	1884	村ごとの戸長と戸長役場を廃止し、新たに 10 か所に連合戸長役場と連合戸長を置く
明治 22年 4月 1日		町村を、分合改称する 八王子町、由井村、横山村、浅川村、元八王子村、恩方村、川口村、加住村、小宮村、由木村ができ、1町9か村となる
明治 22年 9月 1日	1889	市制町村制を施行 <b>八王子町〈18町に元本郷町を統合する〉となる</b>
明治 23年	1890	旧町村の名称は、大字として残す
明治 26年	1893	<b>三多摩全域が、神奈川県から東京府に移管される</b>
大正 元年	1912	<b>地名の改廃を行う 19字を29字とし、地番の改正を行う</b>
大正 6年 9月 1日	1917	<b>字を廃して、町に改める</b> <b>八王子町が、市制を施行（人口 42,043人）</b>

## お詫びと訂正

『八王子の民俗ノート』№2の6頁21行目「同名の村名には、東・西・南・北等の名を正式につけた」と、『八王子の民俗ノート』№4の5頁の下から8～9行目には、「同名の村は、東とか西などの名を正式につけた。加住地区では、北大澤村（南大澤に対して）が誕生した」とあり、その年号を明治15年としたが、明治12年4月が正しい。ここに訂正し、心からお詫び申し上げます。

## 2 鉄道について（『八王子市史』上巻 八王子市 1963）

和 暦	西 暦	こ と が ら
明治 22 年 8 月 11 日	1889	甲武鉄道 新宿－八王子間が開通（明治 39 年 10 月 1 日 国有鉄道となる）
明治 41 年 9 月 23 日	1908	横浜鉄道 東神奈川－八王子間が開通
大正 14 年 3 月 24 日	1925	玉南鉄道 府中－八王子間が開通（府中・新宿間は京王）
昭和 4 年 11 月	1929	武蔵中央電気（市電） 浅川駅前－追分間が開通
昭和 4 年 12 月	1929	武蔵中央電気 追分町－新町間が開通
昭和 5 年 3 月	1930	武蔵中央電気 高尾橋－浅川駅前間が開通
昭和 5 年 12 月	1930	武蔵中央電気 新町－東八王子駅間が開通
昭和 6 年 12 月 10 日	1931	八高線 八王子－飯能間が開通
昭和 14 年 6 月 30 日	1939	武蔵中央電気 道営業停止
昭和 14 年	1939	西八王子駅が開設

## 3 電気・ガス・水道・ゴミ・お墓など（『八王子市史』上巻 八王子市 1963）

和 暦	西 暦	こ と が ら
明治 29 年 5 月 27 日	1896	八王子電気（株）〈八幡町 城所庄五郎〉が、浅川村上長房摺差で水力発電 翌年の八王子大火で市内の施設が焼失
明治 40 年	1907	八王子電気は東京電燈に買収され、八王子営業所となる
明治 45 年 7 月 21 日	1912	八王子瓦斯（株）が設立され、主に灯火用のガスを供給する
大正 3 年	1914	電気は動力線を導入し、力織機導入の基調を整える
大正 7 年 4 月 1 日	1918	「汚物清掃法」を適用し、塵芥清掃及びし尿の汲み取りは市が業者に請け負 わせて、各家庭との間に契約を結ばせて処理
大正 10 年 4 月	1921	塵芥処理を市直営で行う
大正 10 年 9 月 15 日	1921	横山村山田に、八王子市の火葬場を設置
大正 11 年 6 月 22 日	1922	由井村小比企に、八王子市の市営墓地（緑町墓地）を開設
大正 12 年	1923	塵芥焼却場を明神町の浅川土手沿いに設置
昭和 3 年 9 月 1 日	1928	元本郷浄水場から、給水を開始
昭和 26 年 3 月	1951	明神町浄水場が竣工
昭和 30 年 3 月	1955	中野町浄水場が竣工
昭和 34 年 3 月 1 日	1959	し尿処理場を使用開始
昭和 36 年 3 月	1961	中野町に甲ノ原墓地を設置

## 4 旧八王子町の区域内にある町会・自治会

### （1）〈現在の町名〉と〈江戸時代の宿名・村名〉と町会・自治会の名称

〈横山町〉（横山宿）横山町一丁目町会 横山町二丁目町会 横山町三丁目町会

〈八日町〉（八日市宿）八日町一、二丁目町会 上八日町町会

〈八幡町〉（八幡宿）八幡町一、二丁目町会 八幡上町町会

- 〈八木町〉 (八木宿) 八木町町会
- 〈追分町〉 (千人町と久保宿の各一部) 追分町会
- 〈千人町〉 (千人町) 千人町一丁目町会 千人町二丁目町会 千人町三・四丁目町会  
F L E X ・ 西八王子管理組合
- 〈日吉町〉 (嶋之坊宿と久保宿と本郷村の各一部) 日吉町一丁目町会 日吉町二丁目町会
- 〈元本郷町〉 (本郷村) 元本郷町栄和会 元本郷町会 元本郷町一丁目町会 西八親和会  
元本郷町三丁目生栄会 市営元本郷団地自治会 元本郷なごみ会
- 〈平岡町〉 (本郷村) 平岡町町会
- 〈本郷町〉 (本郷宿) 本郷町町会
- 〈大横町〉 (横 町) 大横町町会
- 〈本 町〉 (本 宿) 本町一丁目町会 本町二丁目町会 本町三丁目町会
- 〈元横山町〉 (元横山村の一部) 元一自治会 元横山町第二町会 元横山町中部自治会  
元横山町第四町会 元横山町第五自治会 元横上町会
- 〈田 町〉 (元横山村の一部) 田町町会
- 〈新 町〉 (新 町) 新町町会
- 〈明神町〉 (子安村と子安宿の各一部) 明神町一丁目町会 明神町二丁目町会 明神町三丁目町会  
明神町四丁目町会 八王子スカイマンション管理組合法人  
シャンボール京王八王子自治会 秀和第2八王子レジデンス管理組合  
シャンボール八王子管理組合法人 秀和第1八王子レジデンス管理組合  
ストーク八王子自治会 新明神町二丁目町会
- 〈子安町〉 (子安宿と子安村の各一部) 子安町一丁目町会 子安町二丁目町会 子安町三丁目町会  
子安町東四丁目町会 子安町西四丁目町会 第一八王子ハイツ管理組合  
風樹の丘町会 サザンスカイトワーレジデンス自治会
- 〈東 町〉 (子安宿の一部) 東町町会
- 〈旭 町〉 (子安宿の一部) 旭町町会 ファミールスクエア八王子管理組合
- 〈三崎町〉 (馬乗宿の一部) 三崎町町会
- 〈中 町〉 (馬乗宿の一部) 中町町会
- 〈南 町〉 (馬乗宿の一部) 南町町会 ライオンズマンション八王子南町管理組合  
八王子ローヤルマンション管理組合法人
- 〈寺 町〉 (寺町) 寺町一丁目町会 寺町二丁目町会
- 〈万 町〉 (新横山村の一部) 万町一丁目町会 万町二丁目町会
- 〈上野町〉 (上野原宿) 上野町一丁目町会 上野町二丁目町会 上野町三丁目町会
- 〈天神町〉 (馬乗宿の一部) 天神町町会
- 〈南新町〉 (八日市宿の一部) 南新町町会
- 〈小門町〉 (小門宿) 小門町町会
- 〈台 町〉 (御所水村と新横山村の一部) 台町一丁目町会 台町二丁目町会 台町三丁目町会  
台町四丁目町会 ローズハイツ八王子管理組合 コープ西八王子管理組合

※ 〈 〉内は現在の町名で、 ( )内は、江戸時代の宿名・村名 (町会・自治会名は2014年6月現在)

## 5 旧八王子町に関する参考文献など

※下記に紹介する文献は、既刊のもので、今回の民俗調査対象地域である旧八王子町を中心に取りあげた。

### (1) 八王子の歴史の全体を知る

#### ア 佐藤孝太郎『八王子物語』上巻 下巻 多摩文化研究会 1965

明治36年(1903)に、子安町に生まれた郷土史家の佐藤孝太郎著。内容は、八王子の政治、経済、社会、風俗など多方面にわたっている。昭和29年6月から3年有余の歳月をかけて地元紙「商工日日新聞」に連載したものを2冊にまとめたもの。上巻は、「江戸以前編」でB6判387頁。下巻は、「明治編」で313頁。以下に、本文のほんの一部分を示してみる。

○八王子宿にも勿論、散髪屋はできた。新町の直吉(森田といった)八日市の紋次郎(盛岡と称した)八幡宿の某(のち長谷川といった)など、ざんぎり頭、開化頭をつくり出した先駆床屋だった。これらの床屋は西洋床屋の草分けであり、表の障子などに「西洋ハサミ所」と書き、赤白青の三色のねじれた棒を看板に立てたのである。(西洋床屋の起こり)29頁。

○大通りに井戸があったなどと語っても、今の若い市民達は本当にしない。いわんやどぶ溝の臭気ブンプンたる割下水が、この八王子のメインストリートの中央に掘られ、汚水を流していたことなど、恥しくて・・・というより全然お知りにならないであろう。(車井戸とどぶの大通り)40頁。

○それはどういはずみであったか、地租改正に際し従来八王子駅内、新町、横山宿、八日市宿、八幡宿、八木宿、本郷宿、久保宿、嶋ノ坊宿、小門宿、馬乗宿、子安宿、上ノ原宿、寺町、本宿、横町、千人町と称して、書き記してきたのであるが、俄然「横山宿」一本となり、各宿町の驚きは異常なものがあつた。この旧称八王子駅の消滅は議論を超越して、現実的不便から旧称回復運動は期せずして各宿町より起こされた。(地租改正で八王子の名消ゆ)48頁。

○改正前の八王子町地図をみると、所謂「飛地」と称し、横山、八日市が千人町南側今の台町方面の諸々にあつた。<中略>裁判所付近が一番ひどかつた。八幡町、八日町、馬乗小門、横山町などの地主が買ったところの土地を、自分の居住する町名で登記したので、あつちに横山があり、その隣りに馬乗町が出来たり、全く乱雑極るものであつた、大正元年の町名大改正のときに整理された。(大字改正に着手)276頁。

○大善寺の「お十夜」は八王子ばかりでなく、関東の名物となつて十月二十三日から三日間の所謂十夜大法会は、近郷近在からはもとより近県諸国の善男善女を集めてそのにぎわいは非常なものだつた。(お十夜風俗)281頁。

#### イ 色川大吉編『多摩の五千年=市民の歴史発掘』平凡社 1970

八王子を中心とした「多摩考古学研究会」と「多摩文化研究会」の活動を基盤にした「多摩史研究会」(色川大吉 渡辺忠胤 梶国男 羽鳥英一 樋口豊治 野口正久 沼謙吉 渡辺奨)の編になる四六判327頁。第一部の「地域史と市民の歴史学」、第二部の「序章 先人の涙と汗しのぼう」は地域史の視点を明確にして課題を示している。1970年前後と今日の地域社会の状況は大きく変わつてはいるが、地域で学ぶものにとって共有すべき課題が示されている。

#### ウ 村上直・沼謙吉編『わが町の歴史 八王子』文一総合出版 1979

「原始・古代の八王子」服部敬史、「中世の八王子」樋口豊治、「近世前期の八王子」村上直、樋口豊治、「近世後期の八王子」馬場憲一、「明治時代の八王子」沼謙吉、「激動の大正・昭和前期」沼謙吉、「戦後の発展・学園都市へ」村上直、沼謙吉が執筆。附録として「略年表」「沿革表」「関係文献」

「文化財・史跡等一覧」「年中行事・祭礼一覧」が付く。四六判 247 頁。

## エ 樋口豊治『江戸時代の八王子宿』 摇篮社 1990

「八王子町の成立と構成」「新八王子宿の建設者たち」「甲州道中・千人町通り」「五百人町から千人町へ」「八王子人の心の支え松姫」「甲州道中物語」「宿場の生活」「市場町としての八王子」「新田農民の哀歎」「八王子宿の飯盛女」「安藤広重 ふすまの絵」から成り、『多摩文化』『多摩のあゆみ』に発表した 6 つの論文からまとめたもの。巻末に古書店経営者の小林せきせ氏が作成した「明治末期大正初期 八王子甲州街道横山八日町 商売往来図」(カラー)と明治二年の「菓子肆小林氏良宅絵図」が付されている。四六判 245 頁。

## オ 樋口豊治『市民のための八王子の歴史』 有峰書店新社 1998

本書は、一人の方が八王子の通史をまとめた初めてのもの。『多摩の五千年＝市民の歴史発掘』での地域史に対する問題意識を持続し、著者なりに回答を示したもの。佐藤孝太郎の仕事も意識されている。当時の文化財保護審議会会長の渡辺忠胤氏は、「跋」で「積み重ねられた教育実践と地域史研究の成果」と述べられている。四六判 301 頁。当市史編さん室が開設されるとすぐ、著者ご自身からご寄贈いただいた。

### (2) 旧八王子町の江戸時代の様子がわかる

## ア 間宮士信他編『新編武蔵国風土記稿』 多摩郡 4 巻・5 巻 文献出版 1996

原本は、江戸幕府が作成したもので、文化 7 年(1810)作業開始、文政 11 年(1828)草稿成立、文政 13 年(1830)に献上本が完成した。多摩・高麗・秩父の三郡の調査には、八王子千人同心が関わった。

4 巻には、319 頁から本郷村、333 頁からは本郷新田が掲載されている。本郷村は 32 戸で小名は上と下とが記されている。他に、山川(浅川)、水利(用水)、神社(多賀明神社)、寺院(善能寺 善龍寺 雲龍寺 密蔵院)が記されている。本郷新田は、延享(1744~1748)のころ、江戸四ッ谷梅木の住人の半次というものが開墾したので梅木新田とも梅ヶ岡新田ともいうとあり、民家が 1 軒で、山川(浅川 新田川)、水利(水除堤)、神社(山王社 稻荷社)の記載がある。

5 巻は、今回の民俗調査の対象地域のほとんどが掲載(7 頁から 224 頁まで)されている。八王子十五宿(1,066 軒)の、新町(十王堂宿)、横山宿、本宿、八日市宿、寺町、八幡宿、八木宿、横町、本郷宿、久保宿、嶋之坊宿、小門宿、上野原宿、馬乗宿、子安宿と、千人町、元横山村、新横山村、御所水村、子安村について記載されている。挿図も興味深く、地域を知るための必読書である。

## イ 片山迪夫校訂 植田孟縉『武蔵名勝図会』 慶友社 1967

著者は、植田孟縉(1757~1843)で、文政 3 年(1820)に完成した。「武蔵」の題名が付いているが内容は多摩郡のみである。265 頁から 305 頁までが、旧八王子町に該当する。

なお、207 頁に「江戸にては府中辺より西の方は国堺までを八王子と思えり。また、檜原、五日市辺の者江戸へ出て住地を問われければ、八王子在なりと答うる如し」とある。

## ウ 山本正夫訳 塩野適斎『桑都日記』 正編 続編 鈴木龍二記念刊行会 1972

正編は文政 10 年(1827)の序文で、天正 10 年から文政 7 年の 243 年間の八王子千人同心の記録である。続編は天保 4 年(1833)に脱稿したもので、正編の遺漏を補うことと『新編武蔵国風土記稿』の編さん時の紀行と文字では表現できなかったことを図解に表している。八王子周辺の民俗調査に際しては、正編よりも続編がより利用できる。

## エ 郷土資料館資料シリーズ第 53 号『八王子名勝誌 一』八王子市郷土資料館 2014

全 4 巻。著者は百枝翁。第 1 巻は日本橋から日野宿まで、第 2 巻と第 3 巻前半は八王子宿、第 3 巻の後半と第 4 巻の前半は高尾山、第 4 巻後半に猿橋宿から大月宿までをあつかっている。万延元年（1860）以降の執筆か。「八王子驛入口 新町竹ヶ鼻の図」「舟森 子安明神の図」「八日市宿の図」「極楽寺鼻取如来由来」「横町観池山大善寺の図」などの挿図が興味深い。

## オ 高橋源一郎『武蔵野歴史地理』第五冊 八王子地方 有峰出版 1972

86 頁から 214 頁が八王子市、215 頁から 228 頁は旧子安村、旧元横山村、旧新横山村と御所水村、旧本郷村について書かれている。原本は大正 5 年に着手され、その後実踏などを重ね、昭和 7 年に完成したもの。昭和 3 年から昭和 7 年に全 4 冊（北豊島郡地方から武蔵野の新田開発）が刊行された。本書は、昭和 47 年に 9 冊に分けて刊行されたものの第 5 冊。

## カ 新藤恵久編著『道草日記 腕枕 初編』新藤恵久 1976

文政 3 年（1820）刊行の浅川眉山著の滑稽本。本書は、内藤新宿から八王子までの土次良兵衛と砂八の旅を扱っている。作者の浅川眉山は、文政から天保にかけて活躍した戯作者である。

八王子も含んで題材とした江戸時代の滑稽本には、『甲州道中滑稽華鹿毛』『甲州道中膝栗毛』『八王子三太郎婆ア』などがある。滑稽本は落語の形式を取り入れて、世間話をテーマに会話を面白おかしく描いている。

〔調査報告書〕

## キ『歴史の道調査報告書 第 5 集 甲州道中』東京都教育委員会 1998

「二 甲州道中の概要」（村上直）5 頁～16 頁、「三 道筋の確定と現状」（馬場喜信）59 頁～59 頁～70 頁が八王子市分で、63 頁までが旧八王子町分である。「四 沿道の史跡・文化財等」（新堀八重 真野みつ子 蛭田晶子 清水菊子 生野美知代）96 頁～104 頁が八王子市分である。史料として、「八王子宿組合縮図」「八王子横山十五宿絵図・御代官十八人屋敷跡図」「千人町絵図』『八王子名勝誌』『新編武蔵国風土記稿』『高尾山石老山記』などの絵などが付されている。

## ク『歴史の道調査報告書 第 6 集 佐野川往還』東京都教育委員会 2000

佐野川往還とは、八王子宿から和田峠を越えて旧津久井郡佐野川村を通り、甲州都留郡上野原宿に至る甲州街道の脇往還である。今日の八王子では一般に陣馬街道と呼ばれている。「地誌類にみる佐野川往還沿いの名所旧跡」（10～11 頁）に「島之坊宿」、「水無河原と柏葉市」のところが旧市街地と関わる記述である。「三 道筋の確定と現状」（16～18 頁）に水無瀬橋について記載されている。「四 沿道の史跡・文化財等」（42～43 頁）で、追分町・日吉町・千人町・元本郷町の寺社、指定文化財、石仏などについて記載されている。

## ケ『歴史の道調査報告書 第 4 集 浜街道』東京都教育委員会 1996

「四 沿道の史跡・文化財等の（一）八王子市域の史跡・文化財等」（55 頁～）では明神町・横山町・子安町・寺町・小門町・南新町・上野町・台町・緑町・万町・北野町の社寺、石仏、指定文化財などが紹介されている。「資料編」では、R. パンペリー（1837～1923）『日本踏査紀行』（『新異国叢書』）文久 2 年（1862）の八王子に関する部分が掲載され、旅館や街の様子が記されている。H. シュリーマン（1822～90）の『日本中国旅行記』（『新異国叢書』）慶応元年（1865）6 月 18 日～20 日の記録で、家屋、釣瓶井戸など町の様子が記されている。

### (3) 旧八王子町の明治や大正、昭和はじめのころの様子が分かる

#### ア 八王子市郷土資料館『明治時代の八王子』1993

本書は多摩東京移管百周年記念特別展の解説・資料集として発行されたもの。『一府九県連合共進会手引草 一名八王子案内』（明治32年）、『一府九県連合共進会出品人名目録』（明治32年）、『八王子商工案内』（大正2年）、『武蔵文庫 百家明覧』（明治43年）、『風俗画報』第百四十号（明治30年）と、写真で掲載されており資料集として貴重である。

鈴木利信氏の「日記にみる明治時代の世相と文化」、光石千恵子氏の「明治時代の八王子の教育と横川榎子」は充実した内容である。カラー口絵と多数収録された写真も、楽しく見ることができる。A4判、120頁。

#### イ 『東京府南多摩郡史（復刻版）』千秋社 1994（原本は、南多摩郡役所が大正12年に発行）

大正6年に八王子市は市制を施行し、南多摩郡から抜けたが、当時の八王子市寺町75番地に南多摩郡役所が存在した。郡の桑都公会堂（長心寺境内を借用 当時の寺町71番地）や招魂場（当時の台町437番地の2）は八王子市内にあり、本書の大正5年以前の統計は八王子町を含んでいる。

#### ウ 『八王子郷土資料・復刻版（昭和7年）』小林書店1983（原本は昭和7年発行）

原本は、八王子市教育会が『八王子教育特輯号』で郷土教育資料号として、昭和7年12月25日に発行したもの。菊判、268頁。沿革概説、郷土の自然、郷土の人口、郷土の産業、交通、政治、財政、経済、教育、衛生、神社、寺院、郷土民の生活、名勝遺跡遺物、口碑伝説、郷土の先覚者、参考文献の各章に分かれている。現在では伝承されていない貴重な話などが豊富に掲載され、八王子の町を考えるには必見の書である。

#### エ 八王子市教育会『八王子郷土読本』八王子郷土読本刊行会 前篇 後編 1937

**前篇**は、尋常科第五学年用に作成したもので、本文101頁から16頁にわたり神社・寺院・年表・年中行事の一覧表が付く。項目は、多摩陵、我が八王子、招魂祭、連光寺から高幡へ、時の鐘、鎮守、お祭、浅川、八王子の沿革、市制施行記念日、水道、十夜会、高尾から景信へ、八王子図書館、市場、車人形、名勝古刹、我が市の交通、八王子郵便局、伝説、織物の生立、八王子の産業となっている。

**後編**は、尋常科第六学年用として編纂されたもので、本文88頁に前篇と同じ一覧表と、八王子市全図が付いている。項目は、明治天皇御巡幸と御兎狩、八王子だより、我等の祖先、染織試験場を観る、四季、八王子千人隊、夏祭、衛生の話、商工会議所、郷土の偉人、警察署と裁判所、我が市の諸団体、秋の御陵参拝、八王子織物と織物同業組合、金融の話、ゆかりの古城趾、電気と瓦斯、歌はれし郷土、我が市の教育、松姫物語、我が市の自治、伸びゆく八王子市、郷土の誇となっている。

#### オ 東京府総務部地方課『市町村概観』東京府1938

47頁から66頁までが「織都八王子」で、概説、沿革、産業、教育、衛生、兵事、寺社、財政、市政、社会事業、保健体育施設、名所、八王子市歌、八王子市全図とあり、戦前の八王子を知るための貴重な記録である。

#### カ 東京都南多摩郡中学校会 東京都南多摩郡中学校教育研究会『私たちの郷土南多摩』1955

八王子市は行政上では南多摩郡に属していないが、町の時代は南多摩郡役所の所在地であり、歴史的にも地理的にも南多摩郡と切り離すことはできないとして、八王子市を取り上げている。

第2編の各論「私たちの村や町の姿」の107頁から11頁にわたって八王子市について書かれている。本文はわずか4頁で、八王子市の概要、位置と地勢、交通機関、機業、各種施設、官公庁と六つに区分して書かれている。平易な文章ではあるが、昭和30年ころの八王子市の雰囲気理解できる。



なお、第1篇の総論は「南多摩のあらまし」「自然のなりたち」「産業のありさま」「歴史のながれ」「現代のすがた」と、地域の特徴が良くまとめられている。A5判192頁。

#### キ 『東京都文化財調査報告書 12 南多摩文化財総合調査報告書 第3分室』 都教育委員会 1962

東京都が昭和30年代に実施した文化財調査の成果をまとめたもの。「浅川流域の人文地理調査」と、「浅川流域の民俗」に収められた八王子市本町の葬送、八王子市本町の年中行事、民謡などが参考となる。

#### (4) 町会史(誌)など〔市史編さん室に所蔵されているもの〕

- 『南町山車建造100周年記念 祭礼写真集』八王子市南町町会 2006
- 『南町100周年記念誌』八王子市南町町会 2012
- 『中町百周年記念 中町史』八王子市中町町会 2014
- 『旭町史』旭町町会・八王子駅北口商店会 1988
- 『町制七十五周年 追分町の歩み』追分町会 1988
- 『子安町三丁目町会五十周年記念 わが町三丁目』八王子市子安町三丁目町会 1990
- 『明神町いま昔 明神町三丁目町会町会誌』明神町三丁目町会 1998  
清水正之『明神町わが街』1980年
- 『三十年史(元本郷)町共和会』元本郷町共和会 1988
- 『二交会のあゆみ』横山町二丁目町会 1989
- 『コミュニティ』財団法人八王子市コミュニティ振興会 1995
- 『30年のあゆみ』八王子市町会総連合会 1992
- 『子安市民センター開設十周年記念誌』子安地域住民協議会 1997

#### (5) 学校史〔市史編さん室に所蔵されているもの〕

- 『百年史(1887~1987)』東京都立八王子工業高等学校 1987
- 『昭和を歩む 東京府立二商十九回生文集』文集編集委員会 1995
- 『六十年のあゆみ』東京都立第二商業高等学校創立60周年記念事業協賛会 1981
- 『夕暉かがやく 府立二商第二十一回卒業生文集』小川一麿 2000
- 『創立八十周年記念誌 この十年の歩み』二商校長 2000
- 『八王子市立第一中学校創立50周年記念誌 思い出でつづる50年誌』同事業実行委員会 1997
- 『創立五十周年記念誌(第二中学校)』同記念式典記念誌部会 1997
- 『五十周年記念誌』同記念実行委員会 1997
- 『校譜 創立50周年記念誌(第四中学校)』同校五十周年記念事業実行委員会 1997
- 『青竹(八王子市立第五中学校)』五十周年記念誌実行委員会 1997
- 『五十年のあゆみー創立五十周年記念誌ー』八王子市立第六中学校五十周年事業実行委員会 1997
- 『百周年記念誌』八王子市立第一小学校PTA 1972
- 『ひやくねんのあゆみ』八王子市立第一小学校PTAOB会 1972
- 『にじのはし 第二小創立百二十周年記念誌』同校創立百二十周年実行委員会 1991
- 『五十年のあゆみ(第四小学校)』同記念協賛会 1966
- 『百年のあゆみ(第七小学校)』同校創立百周年実行委員会 1992

## 八王子市八日町の民俗雑記

佐藤 広

これから記すことは、昭和 54 年 5 月 16 日に、八王子市八日町三丁目の金子吉蔵さん（明治 28 年生まれ）からうかがったものです。当時の薩摩都賀太夫（説経師 石川浪之助さん）に案内され、金子さんの御自宅で教えていただいた。

金子家は明治 30 年の大火の時に、埼玉県川越市の近くから引っ越して八王子に来た。埼玉では農家だったが、茶やマユの運搬をしていたらしい。八王子では糸屋をした。

**市** 4 日と 9 日に市が立った。糸座へ出かけたが、買う方は場所が決まっていた。農家の人が一反風呂敷や籠を背負って糸を持って来たが、糸の太さがいろいろだった。市では通りにマゲというものを張った。買った糸は燃らせてから機屋に売った。

**家** 母屋と離れと倉があった。店の入り口にガス灯があって、ガス会社の人点が来た。家の中には置炬燵や火鉢があり、床に置く台ランプもあった。階段は横が引き出しになっているものだった。

**食** 家には囲炉裏はなかったが、釜が二つ掛るヘツツイがあった。鉄鍋や鉄釜があって、その脇にはマキが積み重ねてあった。小僧さんや女中が 2 升釜でご飯を炊いた。2 升へ 6 合くらいの割合でヒキワリの麦を入れ、家族の者も使用人も同じ飯を食べたが、惣菜は家族の者と使用人では違っていた。ゼンバコを使って食べ、鮭、揚げ、目刺し、クサヤ、沢庵などが惣菜であった。アサメシは午前 6 時 30 分ころだった。午前 10 時はオチャだが、これは家族だけで行った。オヒルには、新しくご飯を炊いた。午後の 3 時には女中や使用人もみんなでオサツ（薩摩芋）、煎餅などを食べた。夜なべ仕事は、柱と柱との間に糸を張って、小僧に糸つなぎをさせた。それには鉄砲玉を買いにやって、それをしゃぶらせた。

**正月** お飾りは鳶の人が行く。提灯を大通りに下げた。年始は、背中に丸に川の文字の入った茶色の革葉羽織を着て、小僧と番頭を連れて歩いた。正月の 4 日は、初荷で旗を立てて通りで俵に入れた小さな蜜柑をまいた。それを子どもたちが拾った。七草には粥をつくる。十五日は奉公人が休む。お供えの餅を入れたアズキガユに砂糖をかけて食べる。餅つきは暮れと寒に行った。20 日はエベスコウ（恵比寿講）で、二十日正月ともいった。稲荷様は、伏見、豊川、穴森などを町では祀っていた。初午には舞台を掛け、縮緬の大きな旗をあげ、お囃子を子どもたちがやった。

**婚姻と誕生** 町内の近所の人が高張提灯を持って嫁を迎えに出る。家に入るときには、子どもが附木に火をつけており、それを消した後に嫁はそれをまたいで家に入った。子どもは家で生んだ。子を産む場所は特に決まらなかったが、暗いようなところで出産した。エナ（後産）は産婆さんが素焼きの甕に入れて持って行った。

**墓** 大正 13 年ころ、家で死者が続いて出てしまい、墓相をみてもらって市内の寺にあった墓地を市営墓地に移した。

**その他** 北野からコヤシアゲに来た。大義寺の前に、玉川亭という旅館があった。成田山不動で、影絵（写絵）をみたことがある。

【『桑都民俗の会月報No.54』 桑都民俗の会 1984 年 1 月 20 日発行より全文転載】

※ 本報告には、差別的表現や不適当な表現がみられますが、過去の事実を記録し残す立場として話者の表現をそのまま記述しました。これをもって、差別を助長させることを容認するものではありません。

八王子市市史編さん室 **民俗関係図書の販売（販売中・予定のもの）**

- 1 『新八王子市史民俗調査報告書 第1集 八王子市西部地域 恩方の民俗』 1,000円  
A4判 279頁 口絵カラー4頁 モノクロ8頁 索引あり
- 2 『新八王子市史民俗調査報告書 第2集 八王子市東部地域 由木の民俗』 1,000円  
A4判 357頁 口絵カラー4頁 モノクロ12頁 索引あり
- 3 『八王子市史叢書2 聞き書き 織物の技と生業』 1,000円  
A5判 298頁 口絵写真 8枚

**近刊** 『新八王子市史民俗調査報告書 第3集 八王子市西南部地域 浅川の民俗』  
『新八王子市史民俗調査報告書 第4集 八王子市北部地域 加住の民俗』

① 書店もしくは市の施設での直接購入をご希望の場合

営業日時がそれぞれ異なりますので、電話やホームページなどをご確認ください。

- ◎取扱書店 くまざわ書店八王子店（JR 八王子駅北口・☎042-625-1201）  
石森書店（四谷交差点 デニーズ横・☎042-623-0495）  
磯間書店（JR 西八王子駅北口・☎042-661-1656）  
ブックランド島村書店（JR 西八王子駅南口・☎042-661-6823）
- ◎取扱市施設 八王子市役所1階・市政資料室（元本郷町・☎042-626-3111 代）  
八王子市郷土資料館（上野町・☎042-622-8939）  
八王子駅南口総合事務所（子安町・☎042-620-1150）  
八王子市市史編さん室（寺田町・☎042-666-1511）

※『由木の民俗』は由木・由木東・南大沢事務所でも販売しています。『恩方の民俗』は恩方事務所でも販売しています。

② 郵送での購入をご希望の場合（市史編さん室のみ取扱い）

ご希望の書名と冊数、送付先、お名前、電話番号を明記し、書籍代金の総額（郵便局で購入した「定額小為替」か、現金の場合には現金書留で）と送料分の切手（書籍を入れた荷物の重さで送料が決まりますのでお問い合わせください）を同封し、

〒193-0943 八王子市寺田町1-4-5-3 八王子市市史編さん室までお送りください。

## 八王子市市史編さん

# 民俗調査のお願い

八王子市は、大正6年(1917)に市制を施行しました。そこで、市制100周年記念事業として『新八王子市史』の編さんをすすめています。将来の八王子市を展望するためには、先人の残した貴重な資料を保存し、活用できる環境を整備する必要があります。

今日、八王子市は大きく変貌しています。そこで、市内の伝統的な生活文化を聞き取り、文字で記録して後世に残すため、八王子市市史編集専門部会の民俗部会で地域の民俗調査を実施しています。何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### ◆八王子市市史編集専門部会 民俗部会のメンバー◆

- |           |                  |                                   |
|-----------|------------------|-----------------------------------|
| 1. 部会長    | 小川 直之(おがわ なおゆき)  | 國學院大學教授                           |
| 2. 副部長    | 津山 正幹(つやま せいかん)  | 八王子市文化財保護審議会委員                    |
| 3. 部会委員   | 小野寺 節子(おのでら せつこ) | 國學院大學兼任講師・<br>東京都文化財保護審議会委員       |
| 4. 部会委員   | 加藤 隆志(かとう たかし)   | 相模原市立博物館学芸員                       |
| 5. 部会委員   | 入江 英弥(いりえ ひでや)   | 弘前学院大学准教授                         |
| 6. 部会委員   | 宮本 八恵子(みやもと やえこ) | 日本民具学会会員                          |
| 7. 専門調査員  | 大藪 裕子(おおやぶ ゆうこ)  | 東村山ふるさと歴史館学芸員                     |
| 8. 専門調査員  | 神 かほり(じん かほり)    | 日本民俗学会会員                          |
| 9. 専門調査員  | 美甘 由紀子(みかも ゆきこ)  | 八王子市郷土資料館学芸員                      |
| 10. 専門調査員 | 乾 賢太郎(いぬい けんたろう) | パルテノン多摩職員                         |
| 11. 専門調査員 | 高久 舞(たかひさ まい)    | 國學院大學研究開発機構研究開発推進<br>センター ポスドク研究員 |
| 12. 専門調査員 | 三代 綾(みしろ あや)     | 國學院大學大学院生                         |
| 13. 専門調査員 | 波田尚大(はだ なおひろ)    | 國學院大學大学院生                         |

このほか、八王子市市史編さん室の職員が調査協力をお願いしたり、行事を拝見させていただいたり、資料を拝借しに伺ったりすることもございます。

#### <問い合わせ先>八王子市 **市史編さん室**

〒193-0943 八王子市寺田町1455番地3

電話 042-666-1511 / FAX 042-666-1512

E-mail b420000@city.hachioji.tokyo.jp

ホームページ <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/seisaku/13570/index.html>